

# フォレストニュース

植林が地球を救う  
平成26年(2014)2月10日  
No. 74  
発行 高津啓洋

## 伊達さん・ビクトルさん 記念植樹の手入れ開始

1月23日伊達勝見さんが日本を出発し、パラグアイの新人担当者ビクトルさんと、植樹地のレダに到着しました。伊達さんは、日本の造園技師から造園の現場に入って多くの技術を学んでの出発となりました。

また、ビクトルさんは、出発前に、夫人と息子さんが事務所を訪問しました。(下写真)



2人は飛行機でアスンシオンから定期便でレダ近くのオリンポ市に。オリンポからは車でレダ基地まで向かいました。

レダでは中田実所長らから暖かく迎えられました。

記念植樹地もちょっと不在した間に、多くが雑草とつる草に覆われるという状況で、さっそく整備を開始しました。



次はポット苗づくりから  
植樹拡大は、ポット苗づくりと

植樹地の整備が急務です。植樹地は、元々大きな自然林が生えていたところでしたが、牧場地の為にすべての木々が伐採されたところでした。その後洪水と、度重なる焼畑の為に荒れ果てた地となっています。その後のほとんどです。

ポット苗は、ニーム、マンゴー、アセロラ、アルガロボと実験的に種を植えました。右の写真はさっそく芽を出したマンゴーの苗です。



## 植林のモデル作り

ニームの森は、着実に成長を続けています。2月1日の写真ですが、ニームの実もたくさんついています。今年のカレンダーもニームの森がメインになっていました。40度の暑さを忘れさせる並木に成長しています。下の木

の実にはニームの種です。ポット苗の中でも成長が早く、暑さに強く、比較的乾燥にも強いので、周辺のインディヘナの人たちも、自宅の庭に植えたりして、大変に喜ばれています。

下の赤い花をつけた木は、チバトです。元気に花を咲かせています。和名：鳳凰木(ほうおうぼく)南米ではよく目にすることができます。

